

こにし けいこ
千葉日報社長賞 小西 桂子

1人娘で大切に育てた貴女が、オーストラリアに渡って、もう13年たちました。
その間、現地人と結婚、離婚、ほどなく日本人と現地で再婚と、心配の絶えない日々でした。
父と母は、聞えない耳では国際電話はできず、携帯メールだけが連絡の綱でした。
なかなか返信が来ないと、病気かな？何かあったかな？と不安で胸がつぶれそうでした。
気が付けば、貴女も30代後半で孫は無理かと諦めていた矢先、
「お母さん！私、妊娠した。」と、一番にメールで知らせてくれたね。
ありがとう。とても嬉しかったよ。
お腹が大きくなった貴女を直接見ることはできなかったけど、スマホでリアルタイムで
スカイプで手話で話せ、ITの進歩には助けられた思いです。
予定日より1ヶ月も出産が早まり、大慌てで航空券を変更して、成田から駆けつけたのは
出産6日目。「お母さ～ん」
眠そうな顔をして、玄関口で迎えてくれたね。
その胸には、小さな小さな天使のような男の子がいた。
3週間共に過ごし、お互いに協力しあって子育てをしている貴女と貴女の旦那様を見て
安心して日本に帰りました。
この先も色々なことがあるでしょうが、「母は強し」です。
遠く離れているけど、いつも応援してます。頑張りなさい。

(愛知県／62歳／女性／パート事務)

娘への母の愛を込めて書きました。

遠い外国に住んでいるので、逢いたくても逢えない…手紙ならと思いました。